

【第1号議案】

2017/2018年度(2017.7～2018.6)活動総括及び2018/2019年度(2018.7～2019.6活動方針)

1.2017/2018年度総括

(1) 研究交流活動

2017年度の研究交流活動の目標として、勉強会的な企画だけでなく、交流を軸とした企画も検討し、年4回程度は開催し、新規会員を増やすきっかけ作りともするとしました。結果、企画は以下の通り3回、新規会員は1人となりました。なお、新規会員までにはつながっていませんが、以下の2)3)の企画では普段参加されない方もいたので、新規加入につながるよう継続して取り組みたいと思います。

1)名称:秋の花背リゾート 森林散策とBBQ

日時:2017年11月3日(金)

会場:京都花背リゾート山村交流の森

参加者数:9名

【参加者の声】

京都市内から車で1時間半、1000haの森林公園でおいしい空気と緑に触れて、おいしいお肉を食べて、普段パソコンを見すぎて疲れた目を休めることも出来き、楽しい1日となりました。

2)名称:大図研関西3地域グループ合同例会

日時:2018年3月10日(土)

会場:京都市国際交流会館 第1・2会議室

内容:「これからの大学図書館システムを語る」

～国内初、慶応義塾大学と早稲田大学の2020年図書館システム共同運用の背景～

講師:入江伸氏(慶應義塾大学メディアセンター)

参加者数:54名

備考:京都・大阪・兵庫地域グループ共催終了後、懇親会開催

【参加者の声】

とても勉強に、というか耳の痛い部分もありましたが響きました。

入江さんの話がわかりやすく面白かったです。率直かつウィットにとんだ話の展開をありがとうございました。

大学それぞれの問題があるんだなあと質問者の皆さんからも教わりました。

大変刺激になる企画でした。

3)名称:大図研京都ワンディセミナー

日時:2018年5月20日(日)

会場:梅小路公園 緑の館2階 和室

内容:「“羊さん”こと水知せりさん(漫画家)が語る「“学術情報の伝達”と“利用者の活用術”」

講師:水知せり氏(漫画家)

参加者数:18名

備考:終了後、懇親会開催

【参加者の声】

図書館のあり方、マンガ、法律など色々な話をきけて刺激を受けました。

実際に問題意識を持って活動されている方の話をきくことができ良かった。

こんなに法律の話が出るとは思っていませんでしたが、おもしろかった。

水知さんの漫画の背景にある様々なコンセプトについて伺えて興味深かったです。

図書館のあり方を考えるきっかけにもなりました。

(2) グループ報

2017年度刊行分につきましては、全国大会を京都で開催した都合上、発行期日の遅れが生じたため、合併号として刊行する号も出ましたが、計画的発行に努めました。

イベントを開催するたびに、参加者に参加報告の執筆を依頼し、京都地域グループの活動を会員の皆さんに知ってもらえるよう努めました。

2017年度発行したグループ報の目次は、次のとおりです。

1) グループ報 No.319-320 (2017/08/15-2017/10/15 発行)

・大学図書館問題研究会京都地域グループ第39回京都地域グループ総会を開催いたしました

- ・大学図書館問題研究会京都地域グループ第39回京都地域グループ総会議案
- ・第1号議案
- ・第2号議案
- ・第3号議案
- ・議事メモ・補足事項
- ・会費納入のお願い

2) グループ報 No.321 (2017/12/15 発行)

- ・大図研京都ワンディセミナーのご案内
- ・グループ委員 挨拶
- ・祝!大図研 全国大会@京都 プレ企画「暑い京都をビールで乾杯」に参加して(安東 正)

玄)

- ・全国大会のご案内
- ・会費納入のお願い

3) グループ報 No.322-323 (2018/02/15-2018/04/15 発行)

- ・大図研第 49 回全国大会 (九州) のご案内
- ・秋のお楽しみ企画 BBQ 報告 バーベキューは好きですか? (山下 ユミ)
- ・本の紹介 第 9 回 『強い文教、強い科学技術に向けて：客観的視座からの土俵設定』(坂本 拓)
- ・支部報 No.321 に関するお詫び
- ・会費納入のお願い

4) グループ報 No.324 (2018/06/15 発行)

- ・大学図書館問題研究会京都地域グループ第 40 回京都地域グループ総会のご案内
- ・大学図書館問題研究会京都地域グループ第 40 回京都地域グループ総会議案
- ・京都地域グループ委員の募集について

(3)Web サイト、メーリングリスト、メールマガジン

Web サイトでは、イベントのお知らせや、グループ委員会の報告等、グループ活動の記録を定期的かつ迅速に掲載しています。2011 年度に開始したグループ報電子版は創刊号から最新号まで、一部許諾の得られなかった記事を除き、全て掲載しています。

メールマガジンは、「大図研京都地域グループ News Letter」として、no.239 (2017 年 8 月 2 日) から no.253 (2018 年 6 月 29 日) を発行しました。グループ活動をお知らせするものとして、グループ委員会議事録、グループ企画案内を紹介する記事を配信しています。また、図書館関係のイベント案内を月 1 回に配信しています。さらに Twitter の活用を図り、708 アカウントのフォロワーを得ています。

忘年会やワンディセミナーの告知、セミナー内容のツイートやそのまとめ作成、グループ報発行の広報を行いました。

(4)組織活動

63 名の地域グループ会員の皆様に支えていただき活動しました。

2017/2018 年度当初よりも 4 名減少しました。都合による退会者が 5 名であった一方で、新規入会者は 1 名でした。

ワンディセミナーや全国大会は多くの非会員に対して大図研や京都地域の活動をアピールする場でもあり、会員獲得に努めました。

(5)財務

今年度、全国大会収益、寄附金、セミナー参加費があり、財務基盤の脆弱化について当面の緩和がなされました。また、一括徴収前の大図研会費未納分を損失として計上しました。

(6)広報とデザイン

大図研京都ワンディセミナー「これからの大学図書館システムを語る」のポスターを作成しました。

ポスターを作成できなかった企画もありましたが Web サイトを有効活用し、広報・周知に努めました。

(7) その他

第 48 回全国大会は、2017 年 9 月 9 日～11 日の日程で同志社大学新町キャンパスにて開催し、参加者数は 122 人でした。

また、例年どおり「大学の図書館」の 1 号の編集を担当し、5 月号（特集：オープンアクセスポリシーはどうですか？）を作成しました。

2. 2018/2019 年度活動方針

(1) 研究交流活動

1) 会員の発表の場としての研究交流活動の企画に積極的に取り組みます。

・会員の知的交流の場であると共に非会員への広報でもあるという意味を再認識し、組織拡大への貢献も大きな柱といたします。

・勉強会的な企画だけでなく、交流を軸とした企画も検討し、年 3 回程度は開催できるようにします。

2) 現在計画中的の企画の紹介

米国の大学図書館では、近年 Embedded Librarian（エンベディッド・ライブラリアン）という、サービスの基点を利用者の研究・学習活動に置いたサービスモデルが話題にされていることをご存知ですか？従来のリエゾン・ライブラリアンやサブジェクト・ライブラリアンとは異なるモデルで、実際にアメリカで活躍されているライブラリアンをお呼びする企画を準備中です。乞うご期待！

(2) グループ報

定期発行と正確で読みやすい誌面の作成とともに、広く寄稿を求めかつ連載記事を企画することにより、コンテンツの一層の充実に努めます。今後も、会員に「発表の場を提供する」という目標のもと、会員間での情報共有が進むためのきっかけを提供することを目指し、引き続き努力していきます。

(3) Web サイト、メーリングリスト、メールマガジン

Web サイトを随時更新することで、京都地域グループが主催・共催する種々の活動情報や電子化されたグループ報記事を迅速に提供します。その他のコンテンツの拡充についても継続して検討していきます。また、グループ委員で使用しているサイボウズ live のサービスの終了を受け、代替のグループウェアを検討していきます。

また、メールマガジンについて、より読まれるような内容にする工夫を継続するとともに、配信のタイミングについて検討していきます。同時に、メーリングリスト"ゆりかもめ"についてもその目的である「会員相互の親睦と交流を盛んにすること」の達成を目指し、会員による自由な投稿を促進するよう検討を重ねます。

さらに広報活動の一環として Twitter アカウントの積極的活用を継続します。

(4)組織活動

ワンディセミナー、各種イベント、グループ報、ホームページ、メールマガジン、SNS 等を通じ、京都地域の持つ魅力を認識し、高め、入会者が大図研京都地域グループに在籍していることにより一層価値が見いだせるような活動を行います。

(5)財務

今後も活発な研究交流企画実施のため、多くの研究交流会費を計上しますが、同時にグループ会員の会費の前納を勧めること、グループ助成金の増額を目指すこと、経費節減や見直しが必要になります。

(6)広報とデザイン

ワンディセミナーやその他交流会等において、引き続きポスター・チラシ作成、Web サイト等の広報活動に努めます。また、特定の委員に業務が集中しないよう体制の見直しを検討し、さらに効果的な広報を目指します。